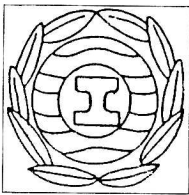


校章の由来

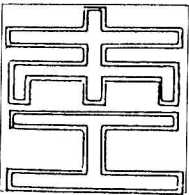
大正13年、広島市工業専修学校として、当時の広島高等工業学校（現在の広島大学工学部）の敷地に設立され、学校長も高等工業学校の校長が兼任されので校章も同じ基盤に立ち、当時、広島高等工業学校の校章は「ギリシャにちなみ学問に於いても最高の名誉のある地位につく」という意味で、月桂樹の葉で「高工」という字を囲んでいた。そこで広島市工業専修学校は広島高等工業学校とは兄弟校とうことで、校章も広島高等工業学校と同じように広島市章のデルタの上に「工」の字をのせたものを月桂樹の葉で囲んだものに決められた。

昭和12年、本校も広島市工業学校に昇格し、広くPRも兼ね夜間でも見えるように「市工」の校章に変更し、昭和23年新制高校発足と同時に生徒より校章を募集したところ、圧倒的多数で創立当時の校章と同じ月桂樹の葉でかこんだ形のものが選ばれた。これが現在の校章となっている。即ち、広島工業専修学校も新制大学に昇格し、由緒ある校章は消えることになったが、広島の地に末永く、謂われを伝えるためにも、本校の校章として月桂樹の葉6枚で「工高」の字を囲んだ校章となったのである。歴史ある校章のもと、団結を固め、学問、技術の勝利をめざして、さらに精進を続けなければならない。



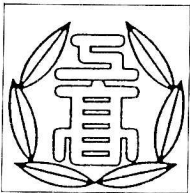
○広島市工業専修学校（定）（大13. 9. 8～昭10. 3. 31）

○広島県広島市工業専修青年学校（定）（昭10 4. 1～昭12.3.31）



○広島市工業学校（定）（昭12. 4. 1～昭16. 3. 31）

○広島市第二工業学校（定）（昭16. 4. 1～昭23. 3. 31）



○広島市中央工業高等学校（定）（昭23. 4. 1～昭24. 4. 30）

○広島県広島千田高等学校（定）（昭24. 5. 1～昭29. 3. 31）

○広島県広島市工業高等学校（定）（昭29. 4. 1～昭39. 3. 31）

○広島県広島市工業高等学校（全定）（昭39. 4. 1～昭55. 3. 31）

○広島市立広島工業高等学校（全定）（昭55. 4. 1～現在に至る）